
主人公以外チートな魔法学園～主人公の必要を考えてみたい～

大蔵司

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

主人公以外チートな魔法学園〜主人公の必要を考えてみたい〜

【Nコード】

N8263N

【作者名】

大蔵司

【あらすじ】

遠い未来、魔法は常識になっていた。そんな時のお話。

遠い未来（前書き）

大蔵司と申します。

今回は、力を入れた真面目な小説を書きたい。と思いました。

結構、ふざけます。ごめんなさい。マジでふざけます。

ふざけ倒します。

遠い未来

昔、人間は科学により文明を発展させた。

しかし、科学による進化には限界があった。

そんな時だった。ある人間が、超能力で自分の指に火を灯した。

人々は驚き、研究し、秘密を探し出した。だが、それは全ての人類に当てはまるものではなかった。

人々は口々に噂し出した。

「魔法使いは本当にいたのだ。」と。

研究所は無くなり、工場にロボットがいなくなり、機械はほとんど無くなった。

代わりに魔法や魔界を研究した。労力など惜しまなかった。

そして人々は見つけてしまったのだ。地球、いや全ての世界が持つ無限のパワーを。

遠い未来（後書き）

真面目な感じですが、色々と手を抜いてます。

ふざけたことしてますね、本当に。自分で言うのもなんですが。

主人公は、いい感じのイケメンっぽく書きます。だってファンタジーだもの。

こんなバカ作者をよろしくお願いします。

魔法学園入学

両親は、泣きながらすまないと謝っていた。

運命には逆らってはいけない。僕はそう言い残すと家を去った。

悪の秘密結社カオス。世界はその脅威にさらされていた。そのトップに君臨する者を

『魔王』

そう呼ぶ。

その秘密結社を倒す人材の育成のために学園は血眼になって探している。

僕は、そのために呼ばれたのではないことくらいわかっている。

というより、こちら側からお邪魔しているという感じ。

魔法が動力の車に乗って、魔法学園へ行く。ワープ能力がついているので、さほど時間はかからない。

魔法学園入学

僕の名前は、レオンⅡカタライドⅡタユマ。魔法使いだ。

魔法使いは、人間と人間の間にごく稀に生まれてくることがある。

その後、魔法使いは魔法使い同士と結婚し、より魔力の高い魔法使いが生まれていく。

かなり高い魔力を持った魔法使いの家には貴族の称号が与えられる。しかし、僕は前者。僕のような魔法使いは、貴族の結婚相手にされるのが普通だ。

そのために僕は魔法学園に行かねばならない。魔法の使い方を学ばないといけないからだ。

両親を恨んではない。これも運命だったんだ。

入学式という名の晩餐会

ワープ機能で着いた魔法学園。

「大きい…」

素直な感想だった。車は静かに去って行った。

そのまま、前に進むと道案内の張り紙があった。

その通りに行くと晩餐会が行われていた。

『レオン様』

名前からしか書かれていないネームプレートがある席に座った。

「ん、君も入学生？」

話かけてきたのは、黒髪で和服を着ており本を読んでいる少年だった。

「ああ、はい。そうです。」

とりあえず、無難に答えた。見た目は日本人っぽいな。日本人の魔法使いは珍しい。日本は魔法使いではなく、陰陽師という文化を持つ。なので、魔法使いは少ないのだ。

「俺の名前は蔵敷^{クラシキ} 神仕^{ツカエ}。よろしく。」

「よろしく願います。」

彼は本から目を離さず握手をした。

「敬語は辞めてくれないか、同じ年なんだし。気楽に話せない。」

彼は本をパタンと閉じると僕の方を見た。

「ああ、わかった…」

「まあ、慣れてくれよ。別に貴族だから偉いというわけでもない。」

彼は、タバコのようなものを吸いながら言った。

「タバコ吸うの？」

「ん、ああ。これはチョコスモークって言って新種の植物のタバコだ。タバコのような毒もない。名前の通りチョコの味がする。」

知らないことばかりだ。

「君の名前は？俺聞いてなかったな。」

タバコの煙を吹きながら話す。なるほど、確かにチョコの匂いがする。

「僕の名前は、レオン」カタライド「タユマ。よろしく。」

「ああ、よろしく。やっぱりタユマ族か。美しい銀髪の上に赤い髪が一筋すつと入ってる。人間と人間の純潔種か。白い肌も特徴だな。」

「タユマ族…」

「親から聞いてなかったのか！？まあ、親も知らなくて当然といったら当然だが…」

「ん、何？」

「服を着ろ。貴族選定のために全裸だったら服を着ろ。男だったから良かったものの…」

彼はそう言うとりュックからガサゴソとカジュアルな服を取り出し僕に渡した。本来、タユマは服を着てはいけない。服を着ると魔力が妨害され、能力が図れないらしい。一応、自分の子孫の種になるからきちんと選びたいらしい。

「良かったな、露出狂に間違われなくて。貴族選定がある時だけ脱げばいいから。」

彼には感謝の連続である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8263n/>

主人公以外チートな魔法学園～主人公の必要を考えてみたい～

2010年10月9日05時08分発行